る部分) を変更できるような構造か。

④次のヒューマンファクターについても考慮する。これらも、危害の発生、危害のひどさの程度に影響を与えるものである。

- a. 機械系と人間特性との適合性（速度、操作量、操作方向など）
- b. 人と人との連携、意志及び情報の伝達（視覚的な伝達の優位性）
- c. 心理学的側面
- d. 人間工学的影響：例えば姿勢、作業妨害物、繰り返し動作の頻度
- e. リスクの認識能力（訓練、経験、能力に依存する）

リスクの見積りの最終ステップで、リスクの見積り結果に基づきリスクの大きさの指標であるリスクレベルを決定する。この指標が、保護方策を実施する際に重要な役割を果たす。